

今月の御教え

心は神信心の定規じやによって、お伺いするときには、とりわけ平気でなければならぬ。落ち着いて静かに願え。

……金光教祖御理解 第九十八節……

解説 教祖様は「《心》は信心する上での《定規》である」と仰せられています。

定規は職人や技術者にとって、なくてはならないものです。その定規が歪んだり疵がついていたりしたら当然良い仕事はできません。それと同様に信心の定規である心の在り方が正しくないと、御蔭は受けられないのであります。では、心の在り方はどの様であったら良いのでしょうか。

それは、御理解第六十八節で「ありがたそうに心経やお祓いをあげても、心に『真』がなければ神にうそを言うも同然じや。拍手も、小さい音でも神には聞こえる。拜むにも、大声をせんでも……」と御理解なされているように、何よりも『真』が大切なのであります。又「おかげは和賀心にあり」「不平不足に御蔭はない」とも、み教え下さっています。故に、『和賀心』でもって『真一心』に祈ってこそ、その祈りは神様に通じ、御蔭を頂くことが出来るのであります。